The best relationship

第一学年通信No47

～最高の仲間たち～



働くこと，お金のことについて考えてみよう　Ｎｏ２

『世界がもし１００人の村だったら』
耳にしたことはありますか？
現在地球に住む７４億の人々を１００人の村に例え、世界情勢を知り相互理解を深めようというものです。2000 年ごろ、インターネットで広まったこの文章。日本でも、その後書籍化，テレビ番組も放送され、“当たり前の日常”を考えるきっかけとなりました。



『世界がもし１００人の村だったら・仕事バージョン』は、次のとおりです。

世界がもし 100 人の村だったら～旧石器時代～

旧石器時代の場合、外に出て働く（狩りをする）のは男性の役目です。労働人口は、村 100 人のうち、成人男性が４０人です。鉄砲や車がないので、狩りをするのも大変でした。４０人の男性が誰１人サボることなく、みんな頑張って狩りをして働いていました。つまり４０人がなんとか、村全員の 100 人分の食料を調達していたわけです。また、冷蔵庫がありませんから、獲得した動物の肉の保存が出来ないため、

「最近休日がないから、
このあたりで３連休とろう。」

なんてことが出来ません。
今日食べる分の肉は、今日狩りで獲得しないといけないため、全員が、食べていくのに、
生きていくのに、
必死だったわけです。



世界がもし 100 人の村だったら　～１９７０年代～

1970 年代に入ると、この 100 人の村に【勤労婦人福祉法)】（のちの男女雇用機会均等法）が制定され、また家電の発達で家事労働が軽減され、女性が外で働くようになってきました。すると、それまで５５人だった労働人口が７０人に増えました。
また、他の村との戦争も以前より少なくなり、主な働き手である成人男性が、ひたすら生産活動に従事することができるようになってきます。
そしてさらに、機械化はどんどん進んでいったため、７０人で一生懸命、稲作や服作りなどの生活必需品生産を行うと、あまりに無駄に多く作りすぎてしまうという問題点が出てきました。
この先、いったい
どうなってしまうのでしょうか？



＊男女雇用機会均等法…1986 年から施行された、職場での男女平等を確保し、女性が差別を受けずに、家庭と仕事が両立できるようつくられた法律

男女雇用機会均等法 が施行されたのは **今から 31 年前** のこと。その後もしばらくは女性が活躍しようにも、「制度自体がない」「ロールモデルがいない」といった声が多いのが実情でした。
果たして、今はどうなのでしょうか。

ハーバードでも話題 意見分かれる男女平等のカタチ
女性の働き方や家庭の役割についての価値観を 4 つに分けると……

１．Traditionalism：男女は職場でも家庭でも別々の役割がある	２３％
２．Work Egalitarian：男女共に仕事をするべき	２９％
３．Dual-Responsibility：女性は仕事をするべきだが、家族や子どもも必要	３０％
４．Flexible Egalitarian：女性は自由にどのような生き方も選べるべき	１８％

1990 年には、１.Traditionalism が 40％を占めていたのに対して、
現在ドイツ、スペイン、デンマークでは、２．Work Egalitarian が大多数になった。
一方で、ハンガリーやポーランドでは、３．Dual-Responsibility が多くみられるという。
日本では、３．Dual-Responsibility に分類される人がヨーロッパ諸国の約２倍いるという。

【日経ウーマン 2016】